

平成21年4月10日  
パリ産業情報センター  
駐在員 酒井 裕史

## 一般調査報告書

フランス観光見本市(MAP)で愛知県観光PR

「世界中がパリへ」というサブタイトルが付いたフランス観光見本市(MAP)が、3月19日から22日の4日間にわたってパリ市内で開催されました。

この展示会は、主として一般の人々を対象としています。このため、他の展示会と比較して来訪者の数が際立って多く、フランス最大の観光展になっています。主催者発表によれば、今回も約9万3千人の来訪者があったそうです。

出展者は世界中から集まっており、各国・地域の政府観光局や旅行関係企業(ホテル等)など、約500団体がブースを構えました。そのうちの約320ブースがヨーロッパ以外の地域を紹介するものであり、さらに約80ブースがアジアを紹介しています。各ブースにおいては、各国・地域の伝統・文化・芸能を紹介するイベントが繰り広げられ、それぞれ個性的なアプローチによる観光PRが展開されていました。



愛知県産業情報センターでも、JNTO(日本政府観光局)と連携し、JNTOが中心になって設けた日本パビリオン内に愛知県としての広報カウンターを設置しました。

日本パビリオン内には、日本の観光事業者・航空会社のほか、本県と同様に岐阜県、沖縄県観光コンベンションビューローのほか、広域で連携して観光振興に取り組む中国地方が出展し、各地域の観光地としての魅力をアピールしました。このなかでは、郡上踊りや和太鼓の実演、来客の名前を漢字で書く書道パフォーマンスや日本酒の試飲会など、様々なイベントが行われ、多くの人々の関心を集めることに成功しました。

愛知県カウンターでは、愛知・名古屋の観光地をさまざまに紹介しながら、パリからの直行便のあるセントレアを活用した広域観光の魅力について、隣接する

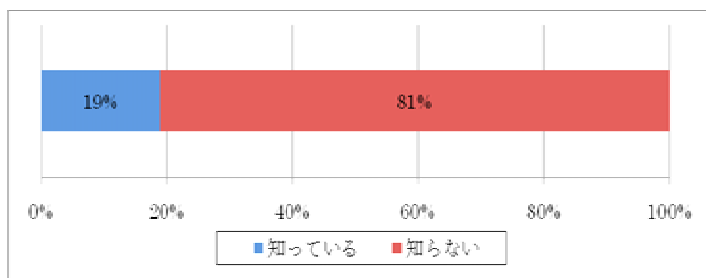


岐阜県のカウンターと協力してアピールしました。また、来訪者を対象にアンケートを実施し、訪問先としての日本、愛知・名古屋への関心の有無や、どのような観光地に魅力を感じているのかについて調査しました。

来訪者のなかには、3回・4回と日本を訪問した経験のある方もいらっしゃり、フランスにおける日本への関心の高さをうかがうことができました。

## <アンケートの結果から>

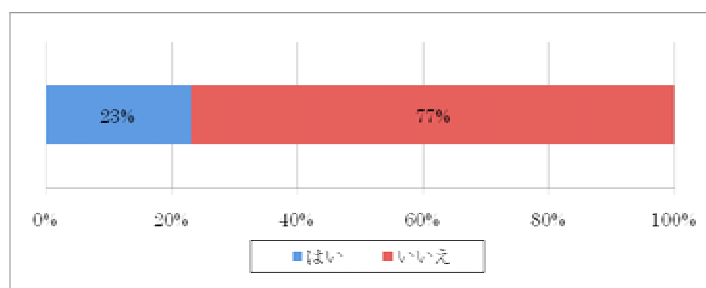
### 1 愛知または名古屋の認知度



「愛知もしくは名古屋を知っていますか」という質問に対しては、19%の人が「知っている」と答えていただきました。しかしながら、このうちで、日本における目的地の一つとして愛知県を訪問したことがある

、という方は、残念ながら数人程度で、そのほとんどが仕事上の目的での訪問でした。一方で、直接に愛知もしくは名古屋を訪問したことがなくても、東京から京都・大阪に行く途中で通った、あるいは名古屋で新幹線を降りて岐阜県・富山県を訪れた、という方は少なからずいらっしゃいました。

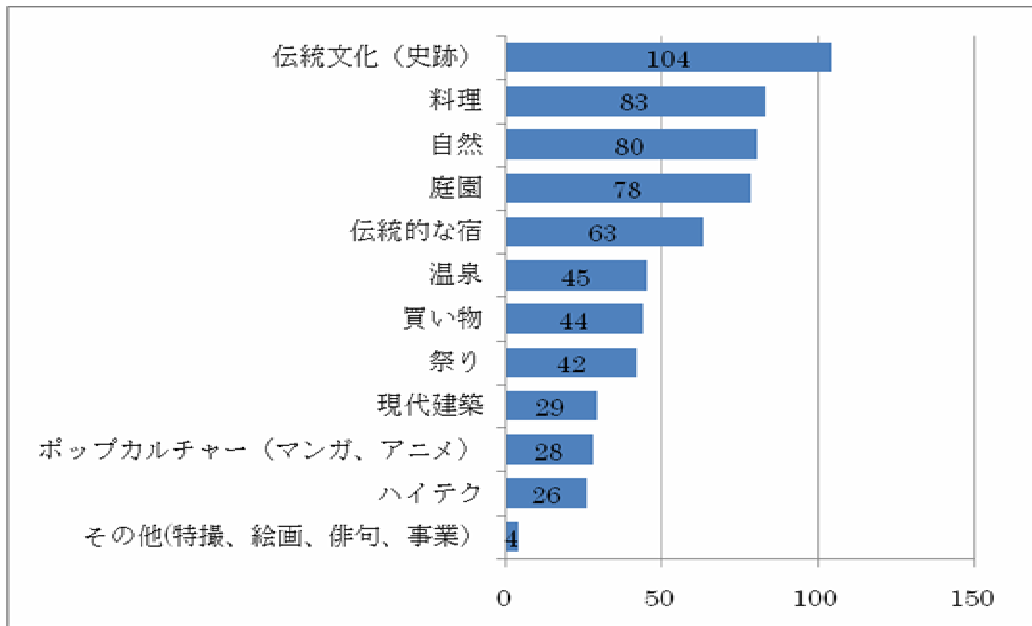
### 2 愛・地球博の認知度



2005年に開催された愛・地球博については23%の人が知っていると答えていただきました。なかには、万博を機に愛知県を訪れたことがある、という方もいらっしゃいました。

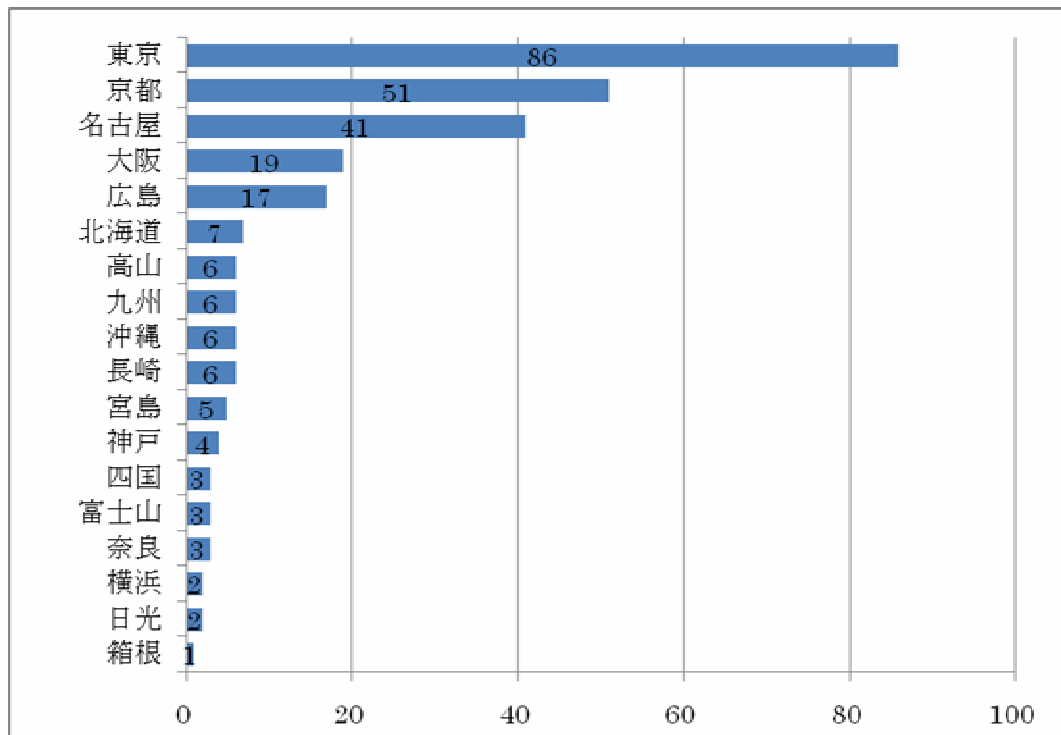
### 3 日本で見たいもの・経験したいこと

あらかじめ別の質問で「日本に行ってみよう」と答えた方々に、日本では何を見たいですか、どんなことを経験してみたいですか、と11の選択肢をお示しし、複数回答可という条件でお答えいただきました。この結果は下表のとおりですが、年齢層に関係なく伝統文化(史跡)や料理などという選択肢が支持された一方で、ポップカルチャー、ハイテクなどの選択肢については、若い世代の方々を中心に支持されていました。また、選択肢外の答えとして、特撮、絵画、俳句などという回答もいただきました。



#### 4 訪問したい日本の都市

アンケートでは、日本国内のどの地域を訪問したいかについてもお尋ねしました。やはり、東京・京都が1位・2位を占めています。3位に名古屋が入っていますが、今回のアンケートが愛知県のカウンターをお訪ねいただいた方々を対象に実施したものであることもあり、フランスにおける名古屋の人気を反映したものとは言い難いように思われます。一方で、広島が第5位と人気を集めており、これについて回答者に口頭で質問したところ、第2次世界大戦時の原爆被害に対する関心の高さ、宮島の厳島神社への人気の高さが背景にあることが判るとともに、東京・京都とは違った日本の姿への関心が高まっていることがうかがえました。



#### <フランスにおける観光地日本のイメージ>

JNTOによれば、2005年におけるフランスからの日本訪問者数は年間110,822人。これは2001年に比較して34%増加しています。ヨーロッパ域内の旅行を除けば、世界で20番目の渡航先でもあります。(ただし、観光目的での来日は、このうちの約53%とされています。)

上記のアンケートの結果に表れていましたが、訪問先として日本を選ぶ理由は、都市観光、文化体験にあるとされています。平均滞在日数は8.7日。やはり、東京・京都が欠かせない訪問先となっている一方で、日本各地を周遊してさまざまな日本を見たいとする傾向が高いものと見られています。

もともと、フランスにおいては日本の伝統文化に対する強い関心があり、経済状況が好転すれば、訪日旅行の展望は明るいと言われています。

#### <パリ産業情報センターにおける今後の観光PRの取り組みについて>

こちらヨーロッパのみならず、世界中で日本の伝統的な文化、現代的な感性が、「クール・ジャパン」として高く評価されています。

特にフランスでは、観光地としての日本への関心の高まりを背景に、世界的に有名な旅行とグルメを紹介するガイドブックを発行するミシュラン社から「Michelin Voyager Pratique Japon」が2007年に初めて発行されたのに続き、2009年にはさらにその内容を拡充した「Michelin Le Guide Vert Japon」(緑のガイド・日本版)が発行されました。この「緑のガイド」はヨーロッパで最も影響力のある旅行ガイドブックとされており、日本へのさらなる集客を大いに促すものとして期待されています。愛知県内でも、名古屋市、犬山市、瀬戸市が取り挙げられ、各市内の観光拠点、グルメが紹介されています。

パリ産業情報センターでは、今回のパリ観光見本市以外にも、ロンドンなどで開催される見本市・展示会に出展するほか、様々な機会を活用し、観光地としての愛知県の魅力を発信していきます。

愛知県海外産業情報センターでは外国企業の誘致に取り組むとともに、貿易引合情報の収集・提供、投資環境調査、経済動向等各種の情報収集、中小企業の海外活動の支援などを行うほか、外国人観光客の誘致にも積極的に取り組んでいます。
---